

作成日：R5 年 12 月 21 日

令和 5 年度第 5 回 高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会議事録

日付	R5 年 1 2 月 2 0 日 (水)
時間	13 : 30 ~ 14 : 40
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター調理室
参加機関等	香川県視覚障害者福祉センター、障害者生活支援センターあい、障害者生活支援センターたかまつ、かがわ総合リハビリテーション事業団成人支援施設、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計 6 名

議題 1：香川県視覚障害者福祉センターとの協力について

議事	<p>11 月 21 日、同センターを少人数で訪問。部会の他のメンバーとも情報共有や質疑応答の機会を設けることとなった。視覚障害者が生活する中での困りごととして、商店街には同線のガイドラインがないため非常に移動がしにくい状況がある。また、駅ホームからの転落事故を防ぐための啓発として、コロナ禍前に J R とコラボして、一般の方を対象に実際の鉄道車両を利用して、乗車サポートをしてくれる方への講座を開催(10 名定員)していた。しかし、一般市民の参加はなく、業務上で参加する方が多く、日中に実際に鉄道を利用されている方の参加がなかった。香川県内でも大きな事故には至らなかったものの、転落事故はある。地方都市の特徴として、1 つの駅のホームであっても乗車口が列車の形状などによって変わるといことがある。その為、同センターで実施している白杖を利用した歩行訓練の際に構内の動きをルーティン化するようにしているが、本人の体調や日光の強弱などの要因によってルーティンが崩れることがあるため、サポートしてくれる人が必要。無人駅やワンマン列車が増える中で、視覚障害者の方にはリスクが高い。そういった状況を背景として、当事者と鉄道会社で話し合いを実施。ホームの所定の位置に止まって列車が来るのを待ち、乗務員などが声をかけるな</p>
----	--

	<p>どのやり方が一番安全性が高い取り組み等の意見交換ができた。</p> <p>視覚障害者の特徴として、電車乗車中にトイレに行きたくなくて途中下車しても駅のトイレの位置をすぐに見つけることが出来ないという支障がある。その為、移動しやすい位置にトイレがある駅を歩行訓練時には加えるなどの工夫をしている。電車の中において乗務員に助けてもらいたくても、乗客との区別が出来ないため、困りごとを言い続けた結果、最近では乗務員の方が白杖を持っている方が乗車した場合には気にかけてくれるようになっている。行政への要望としては、プレクストークの利用者が多いものの、市の給付対象は1, 2級のみ。しかし3級以上の人でも文字を読むことには難しさがあるため、支給対象を広げてほしいことと、プレクストーク（再生のみ）は価格が高くなっているものの助成額は以前の値段のままなので、自己負担額が大きくなる。その為、自己負担が少ないより高価な録音機能付きを購入する人が多いのが現状。</p> <p>同センターとしては、これまでも啓発などをしてきたものの、なかなか功を奏さず、他機関の啓発と協働しながら取り組めることはないのかと思っている。</p> <p>ピアサポーター活動については、興味はある方もあるが、実際に対面で会うとなると非常にハードルが高くなる。情報収集は YouTube を利用する方も多く、例えばピアサポーターさんの講演をオンデマンド等で発信できるとありがたい。</p> <p>こどもたちへの啓発については、体験型の物も多いが、来てもらう、疑似体験をしてもらうだけでは中々理解が広がらない印象を受けているため、可能ならアウトリーチで学校に行き、一緒に何かの作業をする等の取り組みがあるとよいと思われる。</p> <p>その他自助具等については、かがわ総合リハビリテーション福祉センター内のくらし快適館とも協働できるように進めていきたい。</p> <p>装具支給額等の改正が数年に1度ある際に、部会などにヒアリングが以前あったが、その際視覚障害者に関する発信は出来ていなかったことから、部会の活動と一緒に取り組みながら、行政に対して一緒に発信していけるとよい。</p>
今後の動き	<p>次回も参加いただき、視覚障害者のことも含めて、圏域内の身体障害者に関する取り組みなど、検討を重ねることとする。</p>
備考	<p>今回はR6年2月21日(水)13:30～</p>